

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2009～2011

課題番号：21243004

研究課題名（和文） 衆議院事務局の未公開資料群に基づく議会法制・議会先例と議院事務局機能の研究

研究課題名（英文） The study of the parliamentary law system, parliamentary procedure and parliamentary secretariat: based on the new historical records kept in the House of Representatives

研究代表者

大石 眞 (OISHI MAKOTO)

京都大学・法学研究科・教授

研究者番号：90091660

研究成果の概要（和文）：本研究は、申請者による予備調査によって両議院事務局に遺されていることが判明した膨大な未公開資料群の活用を通して、議会法制、議会先例や議院事務局機能について、複合的な視点から解明した。その主たる成果は、（１）衆議院議事部が所蔵する帝国議会時代の資料群を整理した点、（２）衆参両院事務局のOBにオーラル・ヒストリーを実施した点、（３）海外の議会事務局の調査を行った点などであり、これらに基づいた書籍、報告書や目録を公刊した。

研究成果の概要（英文）：This study focused on the parliamentary law system, parliamentary procedure and secretariat of parliament by using a large amount of historical records which the House of Representatives allowed our group to research. We (I) arranged the documents which is kept in Proceedings Department of the House of Representatives, (II) interviewed OBs of the Secretariats of the House of Representatives and the House of Councilors, (III) researched some parliament secretariats in foreign countries, and published books and reports.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	8,500,000	2,550,000	11,050,000
2010年度	7,400,000	2,220,000	9,620,000
2011年度	6,400,000	1,920,000	8,320,000
年度			
年度			
総計	22,300,000	6,690,000	28,990,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：法学・公法学

キーワード：公法学、政治学、憲法史、議会法、議会先例、議会事務局、オーラル・ヒストリー

1. 研究開始当初の背景

（１）近年の憲政史研究は、各種の内外資料の公開・発掘により飛躍的な展開を遂げているが、国会両議院は情報公開法の適用対象外

とされ、従来、その所蔵資料への外部からのアクセスは不可能であった。そのため、両院間の調整プロセスを規律する議会先例の形成や、議事運営に係る独自調査の遂行など、

両院制度の運用にあたって大きな役割を果たしてきた両院事務局・議会官僚の役割についてはブラックボックスとされ、本格的な研究は手つかずの状態にあった。

(2) このような状況に鑑み、申請者(大石)を代表とする研究グループは、2008年から衆議院事務局が所蔵する資料の予備調査に着手し、多くの貴重な資料が残されていることを確認した。本研究は、これら膨大な未公開資料の整理、保全を行うと共に、その活用を通して、議会法、議会先例、議院事務局機能について、複合的な視点から解明することをも目指して構想されたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的を具体的に述べれば、以下の通りである。

(1) 衆議院議事部が所蔵する帝国議会時代の資料群を整理すると共に、傷みの激しい資料、特に重要な史料的价值を持つ資料を特定し、今後保全や研究を進めるための基盤を構築する。

(2) 衆議院事務局の協力のもとで、事務局による議事法研究の成果である重要資料を出版する。

(3) 衆議院事務局の機能を解明するため、事務総長経験者をはじめとするOBに対して、オーラル・ヒストリーを実施する。

(4) 議会事務局の役割を、諸外国の例と比較照合するため、海外の議会事務局の調査を実施する。

(5) 以上の作業と連携しながら、各研究分担者において著書、論文の公表を進め、議会法制、議会先例や議院事務局機能について、複合的な視点から解明する。

3. 研究の方法

(1) 研究対象の特性に鑑み、憲法学、議会法学、政治学、行政学、政治史学など、幅広い専門の研究者を糾合し、学際的な共同研究体制を敷いた。また、研究の全期間を通じて、衆参両院事務局からは十全な支援体制を頂いた。

(2) 衆議院議事部所蔵の資料群の整理にあたっては、痛みの激しい史料の取り扱い、くずし字の読解に習熟した研究補助者の協力を得た。研究補助者は、以下の通りである。

近藤秀行、若月剛史、鈴木敦。

(3) オーラル・ヒストリーの実施にあたっては、衆参両院事務局から協力を頂いた。聞き取り者として、奥健太郎氏、今津敏晃氏、中澤俊輔の参加を得た。また、記録の作成のため、テープ起こしの専門家の協力を得た。協力者は、以下の通りである。丹羽清隆、若林作絵。

(4) 各分担者が連携しながら効率的に共同研究を進めるため、東京、京都において定例研究会を年2-3回開催した。研究会では、研究の実施状況を確認すると共に、各分担者が持ち回りで報告を行った。また、外部講師を招聘して、最新の研究動向の把握に努めた。研究会には、衆参両院事務局からも参加者を得た。

4. 研究成果

(1) 衆議院議事部が所蔵する帝国議会時代の資料群を整理し、傷みの激しい資料、特に重要な史料的价值を持つ資料を特定し、今後保全や研究を進めるための準備を整えた。また、資料全体を網羅する目録「帝国議会期文書仮目録」を作成した。同目録は、ウェブ(九州大学学術リポジトリ)上で公開している

(下記5を参照)。資料自体の公開や利用に向け、衆議院事務局と検討・協議を開始した。参議院事務局所蔵の資料群についても、予備的調査を開始した。

(2) 衆議院事務局の協力のもとで、事務局による議事法研究の成果である『逐条国会法』全8冊を公刊した。この資料作成の経緯を調査するため、事務局所蔵資料やOBへの聞き取り調査を実施し、解題として、赤坂幸一「事務局の衡量過程」を公刊した。

(3) 衆議院事務局の協力のもとで、議事運営の実践書である『議事解説』を公刊した。この資料作成の経緯を調査するため、事務局所蔵資料の調査やOBへの聞き取り調査を実施し、原田一明が解題を執筆した。

(4) 参議院事務局の協力のもとで、『貴族院彙報』の出版準備を進めた。今野彥男『国会運営の法理』の編集・出版に協力を行った。

(5) 衆参両院事務局の機能を解明するため、事務総長経験者をはじめとするOBに対して、オーラル・ヒストリーを実施した。実施したのは、以下の方々である。谷福丸氏(元衆議

院事務総長)、今野彘男氏(元衆議院議事部副部長)、平野貞夫氏(元衆議院委員部長)、近藤誠治氏(元衆議院調査局長)、指宿清秀氏(元参議院事務総長)、佐藤吉弘氏(元参議院委員部長)。聞き取りの記録は冊子化し、国会図書館や関係研究機関に寄贈した。このうち、今野氏、近藤氏の記録については、『国会運営の裏方たち』『立法過程と議事運営』として公刊した。さらに、聞き取りの過程で収集された諸資料についても、保存・公開の措置を講じた。

(6) 衆議院事務局の協力のもとで、海外の議会事務局の調査を実施した。実施先は、イギリス(大石、原田、木下、牧原)、フランス(大石、原田、木下)、EU(川人)、韓国(赤坂)である。このうち、大石(フランス)、木下(イギリス)、赤坂(韓国)が、その成果を『Research Bureau 論究 第8号』(衆議院調査局)誌上において「特別企画 海外議会事務局制度研究」として発表した。

(7) 以上の作業と連携しながら、各研究分担者が各自の分担に基づき、研究成果の公表を進めた。詳細は下記5を参照。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計23件)

(1) 大石 眞、判例を学ぶ、法学入門、査読無、367号、2011年、pp. 27-33

(2) 大石 眞、公務員制度改革をめぐる憲法論議：公務員給与減額法案を中心に、人事院月報、査読無、748号、2011年、pp. 2-5

(3) 大石 眞、フランス議会事務局の組織と機能：下院(国民議会)の事務局を中心に、Research Bureau 論究、査読無、8号、2011年、pp. 183-193
[http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryō/2011ron8.pdf/\\$File/2011ron8.pdf](http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryō/2011ron8.pdf/$File/2011ron8.pdf)

(4) 川人 貞史、衆議院議員経歴の長期的分析1890-2009、国家学会雑誌、査読無、124巻5・6号、2011年、pp. 1-35

(5) 原田一明、解題、昭和17年4月帝国議会衆議院事務局編『議事解説』(信山社)、査読無、2011年、pp. vii~xxi

(6) 木下和朗、英国議会下院事務局の経緯と現況、Research Bureau 論究、査読無、8号、2011年、pp. 194-203
[http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryō/2011ron8.pdf/\\$File/2011ron8.pdf](http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryō/2011ron8.pdf/$File/2011ron8.pdf)

(7) 赤坂幸一、日本における議院内閣制の運用の諸問題、江原法学、査読無、32号、2011年、pp. 89-109

(8) 赤坂幸一、統治システムの運用の記憶—議会先例の形成、レヴァイアサン、査読無、48号、2011年、pp. 65-98

(9) 赤坂幸一、参議院をどうするのか、朝日ジャーナル(週刊朝日臨時増刊)、査読無、116巻51号、2011年、pp. 42-44

(10) 赤坂幸一、憲政秩序と議会官僚—韓国国会事務局調査の概要、Research Bureau 論究、査読無、8号、2011年、pp. 204-214
[http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryō/2011ron8.pdf/\\$File/2011ron8.pdf](http://www.shugiin.go.jp/itdb_rchome.nsf/html/rchome/Shiryō/2011ron8.pdf/$File/2011ron8.pdf)

(11) 奈良岡聰智、消費税導入をめぐる立法過程の検討—「平野貞夫日記」を手がかりに、レヴァイアサン、査読無、48号、2011年、pp. 99-130

(12) 大石 眞、「地方政府基本法」構想をめぐる視点と論点—主として憲法論の立場から、都市問題(東京市政調査会)、査読無、101巻9号、2010年、pp. 42-54

(13) 大石 眞、立法府の役割と課題、Research Bureau 論究(衆議院調査局)、査読無、7号、2010年、pp. 8-16

(14) 大石 眞、議院内閣制と議会の役割—政権交代の試練、公共政策研究(日本公共政策学会)、査読無、10号、2010年、pp. 34-44

(15) 川人 貞史、参議院の選挙制度と民意、學士會会報、査読無、885号、2010年、pp. 96-113

(16) 原田一明、議会の調査・監督機能—国会による「政府」統制の意義と限界、公法研究、査読無、72号、2010年、pp. 151-164

(17) 原田一明、イギリスの新最高裁と下院の

現在・管見、立教法学、査読無、80号、2010年、pp. 133-163

(18) 原田一明、書評 今野或男『国会運営の理論』、公共政策研究、査読無、10号、2010年、pp. 120-121

(19) 大山礼子、変革期の英国議会、駒澤法学、査読無、9巻3号、2010年、pp. 61-118

(20) 赤坂幸一、事務局の衡量過程のEpiphanie、昭和54年3月衆議院事務局編『逐条国会法』第1巻(信山社)、2010年、pp. 3-17、査読無

(21) 赤坂幸一、解散の原理とその運用、大石眞・土井真一・毛利透編集委員『各国憲法の差異と接点-初宿正典先生還暦記念論文集』(成文堂)、査読無、2010年、pp. 141-162

(22) 増山幹高、国会審議からみた国会法改正-いかに議会制度は選択されるのか?、公共政策研究、査読無、9号、2009年、pp. 48-66

(23) 赤坂幸一、権力分立論、法学セミナー、査読無、54巻11号、2009年、pp. 28-31

[学会発表] (計1件)

① 原田一明、議会の調査・監督機能-国会による政府統制の意義と限界、日本公法学会、2009年10月11日、於京都大学

[図書] (計15件)

① 平野貞夫 (述)、赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太 (インタビュー・構成)、平野貞夫オーラルヒストリー (上巻) (赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太)、2012年、pp. 1-309

② 平野貞夫 (述)、赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太 (インタビュー・構成) 平野貞夫オーラルヒストリー (下巻) (赤坂幸一・奈良岡聰智・村井良太) 2012年、pp. 1-300

③ 川人貞史 (吉野孝・平野浩・加藤淳子との共著)、新版 現代の政党と選挙 (有斐閣)、2011年、pp. 1-298

④ 大山礼子、日本の国会 (岩波書店)、2011年、pp. 1- 236

⑤ 昭和17年4月帝国議会衆議院事務局編、議事解説 (信山社)、2011年 pp. 1-320

⑥ 今野或男、国会運営の法理 - 衆議院事務局の視点から (信山社)、2011年、pp. 1-409

⑦ 今野或男 (著)、赤坂幸一・奈良岡聰智 (編著)、国会運営の裏方たち-衆議院事務局の戦後史 (信山社)、2011年、pp. 1-424

⑧ 近藤誠治 (著)、赤坂幸一・奈良岡聰智 (編著)、立法過程と議事運営-衆議院事務局の三十五年 (信山社)、2011年、pp. 1-432

⑨ 谷福丸 (述)、赤坂幸一・中澤俊輔・牧原出 (インタビュー・構成)、谷福丸オーラルヒストリー (赤坂幸一、中澤俊輔、牧原出)、2011年、pp. 1-423

⑩ 指宿清秀 (述)、赤坂幸一・奥健太郎・奈良岡聰智 (インタビュー・構成) 指宿清秀オーラル・ヒストリー (赤坂幸一・奥健太郎・奈良岡聰智)、2011年、pp. 1-348

⑪ 近藤誠治 (述)、赤坂幸一・奈良岡聰智 (インタビュー・構成)、近藤誠治オーラルヒストリー (赤坂幸一・奈良岡聰智)、2011年、pp. 1-405

⑫ 佐藤吉弘 (述)、赤坂幸一・今津敏晃・奈良岡聰智 (インタビュー・構成)、佐藤吉弘オーラルヒストリー (赤坂幸一・今津敏晃・奈良岡聰智)、2011年、pp. 1-311

⑬ 昭和54年3月衆議院事務局編、逐条国会法(全8巻、信山社)、2010年、総頁4461

⑭ 今野或男 (述)、赤坂幸一・奈良岡聰智 (インタビュー・構成)、今野或男オーラルヒストリー (赤坂幸一・奈良岡聰智)、2010年、pp. 1-442

⑮ 大石 眞 (大沢秀介と共編)、判例憲法 (有斐閣)、2009年、pp. 1- 430

[その他]

ホームページ等

奈良岡聰智・赤坂幸一・若月剛史・近藤秀行・鈴木敦、帝国議会期文書仮目録、2010年、pp. 1-26

<http://hdl.handle.net/2324/17762>

6. 研究組織
(1) 研究代表者

大石 眞 (OISHI MAKOTO)
京都大学・法学研究科・教授
研究者番号：90091660

(2)研究分担者

川人 貞史 (KAWATO SADAFUMI)
東京大学・法学政治学研究科・教授
研究者番号：10133688

原田 一明 (HARADA KAZUAKI)
横浜国立大学・国際社会科学研究科・教授
研究者番号：50244405

大山 礼子 (OYAMA REIKO)
駒澤大学・法学部・教授
研究者番号：70275931

牧原 出 (MAKIHARA IZURU)
東北大学・法学研究科・教授
研究者番号：00238891

木下 和朗 (KINOSITA KAZUAKI)
北海学園大学・法務研究科・教授
研究者番号：80284727

村井 良太 (MURAI RYOTA)
駒澤大学・法学部・准教授
研究者番号：70365534

赤坂 幸一 (AKASAKA KOICHI)
九州大学・法務研究科・准教授
研究者番号：90362011

奈良岡 聰智 (NARAOKA SOCHI)
京都大学・法学研究科・准教授
研究者番号：90378505

(3)連携研究者

御厨 貴 (MIKURIYA TAKASHI)
東京大学・先端科学技術研究センター・教授
研究者番号：00092338

増山 幹高 (MASUYAMA MIKITAKA)
政策研究大学院大学・政策研究科・教授
研究者番号：50317616